

旭川工業高等専門学校 学校だより・ファンクト

FANCT



▲平成24年度卒業証書授与式・専攻科修了証書授与式及び学位記授与式

CONTENTS

■平成24年度卒業証書授与式・ 専攻科修了証書授与式及び学位記授与式、校長告辞	1	■専攻科特別研究発表会 ほか	12
■卒業生及び担任教員から	3	■全国パテントコンテスト、 デザインパテントコンテスト ほか	13
■専攻科修了生から	7	■道内高専留学生交流会 ほか	14
■在校生送辞、同窓会会長祝辞	8	■水原ハイテク高校からの留学生受け入れ ほか	15
■平成24年度指導報告 (教務主事・学生主事・寮務主事・専攻科長から)	9	■地域開放特別事業 ほか	16
■「校訓」の制定にあたって	11	■平成24年度卒業生・修了生進路状況	17
		■平成25年度入学者選抜試験状況	18
		■お知らせ(行事予定 ほか)	19

Vol.114

◆「FANCT」…旭川高専を表す「ANCT」に「F」をつけて「Fun」（楽しみ、愉快的）の音をつけました。旭川高専の楽しい情報を伝えること、また、読むのが楽しみな学校だよりになるよう名付けました。

Asahikawa National College of Technology

旭川工業高等専門学校

「旭川高専は創立50周年を迎えました」



「告 辞」

校 長 高橋 英明

平成24年度卒業証書授与式および専攻科修了証書授与式に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

本日晴れて卒業を迎えられた141名の卒業生諸君、修了を迎えられた22名の専攻科修了生諸君、「おめでとう」と心からお祝い申し上げます。また、ご列席いただきました保護者の方々、ご家族の皆様にも、本日の御慶事、心よりお祝い申し上げます。

ご臨席の来賓の皆様、ご多忙のなか、また足下の悪いところ、ご出席賜り、まことに有難うございます。日頃より、大所高所からのご指導と温かい励ましを下さり、心より感謝申し上げます。御蔭様にて、卒業生・修了生ともに、就職あるいは進学と、その進路は異なりますが、ほぼ100%希望を達成することができました。

学生諸君の門出にあたり、一言はなむけの言葉を添えたいと思います。我が国が未曾有の大災害に見舞われてから2年がたちました。今なお、ふるさとに戻れず不自由な生活を強いられている方々が、復旧・復興のために懸命の努力が続けられています。被災者と、そして復興のため、日夜仕事に励んでおられる全国のエンジニアにエールを送りたいと思います。

さて、昨年末、安倍新内閣が誕生いたしました。新内閣は、長く続いたデフレからの脱却を掲げ、我が国の経済の活性化を大きな目標として活動を開始しました。新しい成長戦略の

策定、あるいはTPPへの参加は、我が国の産業構造を守りから攻めへと大きく変化させると予想されます。山中教授が研究しているiPS細胞を使っての再生医療、社会の持続的発展を可能とする再生可能エネルギー、最近よく耳にするPM2.5と関連の深い環境技術など、我が国の誇る先端技術を世界に発信できるシステムの構築、パラダイムの変換が必要となります。

先日、東京大学ものづくり経営研究センターの特任研究員として活躍されている吉川良三氏の講演を拝聴する機会を得ました。日立製作所、NKKで働いたのち、韓国サムスン電子の常務取締役として活躍された方です。吉川氏は講演の中で、何故、あれだけ隆盛を誇った我が国のエレクトロニクス産業が凋落し、逆にサムスン電子が短期間で世界の頂点に登りつめたかについて、これまでの経験に基づいてお話しされました。吉川氏によれば、我が国の国際競争力が大きく低下したのは、「真のグローバル化」に乗り遅れたことが、その大きな要因であるとのこと。我が国の多くの企業は、安い労働力を求めて海外に進出しましたが、海外工場で生産するのは、国内で設計された国内向けあるいは先進国向けの、いわゆる高級品ばかりでした。現地で生活する人たちが、どんなものを必要としているのか、どのくらいの値段なら購入できるのかなど、彼らの文化、慣習、嗜好、生活レベルを把握し、それに合わせたものづくりがなされていなかったと言います。





「技術のガラパゴス化」と言う言葉が、マスメディアで盛んに用いられていますが、これは、製品の開発において、その視点がすべて我が国の中にあり、発展途上国を含めた広い世界を視野にいれたユニバーサルなものづくりが行われていないことを意味します。サムスン電子は、まさしくこの点を突いて世界の巨人になったとのこと。海外に工場を建てるだけでなく、いかに現地の人々の欲するものを生産するかを第一に心がけたと言います。

我が国においても、ようやくこの点が理解されてきたと聞いています。我が国のものづくり産業が、「ガラパゴス化」から脱し、世界を視野に入れたユニバーサルな、真のグローバル化が、始まろうとしています。このような時期だからこそ、我が国は、あなた方のような若い、はつらつとした、そして新しい、柔軟な発想をもった技術者を必要としています。世界中を駆けめぐり、現地の人々と深く解け合って地域密着型のものづくりができるエンジニアを必要としています。これが実現した暁には、現在、27位まで落ち込んでいる我が国の国際競争力もV字回復するに違いありません。

旭川高専では、実践的研究開発型技術者の養成を目標に、早期体験型学習および問題対応型学習を重点的に取り込んだ教育を行っています。また、最近では国際社会で活躍できる人材の育成にも力を入れ、韓国水原ハイテク高校との学生交流、ニュージーランドEITへの学生派遣等、国際的雰囲気



醸成と異文化体験を推進しています。本校は、昨年、創立50周年を迎え、去る10月5日、記念式典・記念講演会として祝賀会を盛大に執り行うことができました。卒業生・修了生の数は6,000人を超え、その多くは、産業界を中心に大活躍しています。卒業生・修了生諸君は、そういった人たちの努力と汗の結晶を宝物として持っている訳ですし、諸君の持っている生来のおおらかさとフロンティアスピリットが、これから大いに力を発揮するものと確信しています。仲間との絆を大切に、旭川高専卒業・修了のプライドを胸に、自信を持って羽ばたいてほしいと思います。本校は、創立50周年を機に、栄えある歴史と伝統を継承しつつ、さらに新しい未来に力強く踏み出すことを誓って校訓を定めました。「明朗誠実 自主創造」です。もし、卒業生・修了生諸君が、将来、人生の選択を迫られたとき、是非この言葉を思い出して道標にしていだきたいと思えます。

卒業生の中には、マレーシアとラオスからの2名の外国人留学生がおります。遠く故郷をはなれ、異境での勉学は、大変つらいこともあったかと思いますが、どうぞそのチャレンジ精神を持ち続けて下さい。

卒業生・修了生諸君の前途に輝かしい未来が開かれますよう心からお祈りし、卒業と修了のお祝いを申し上げるとともに、保護者の方々ご親族の方々にお礼と感謝を申し上げ、告辞とさせていただきます。



卒業生及び担任教員から

卒業おめでとう

機械システム工学科5年担任 立田 節雄

34名の学生の皆さん、卒業おめでとう。5年もの長い間、勉学に勤しんできた皆さんに、心より賞賛の拍手を送ります。成長を見守ってこられた保護者の皆様にとっても、ご子息の卒業は大きな喜びであり、子育ての一区切りに安堵されていることと思います。

この学年は第2学年まで4学科の学生が混在する混合学級で学んでおりました。第3学年から学科別のクラス編成となりましたが、物静かな学生が多いこともあって、クラスとしてのまとまりができるまでに、少々時間がかかりました。最初はモザイク状の人間関係が気になりましたが、今では、これまでの機械システム工学科のクラスとほぼ同じような状況になっています。

私事で恐縮ですが、私は旭川高専で32年間教員をしております。卒業生を送り出すのは、今回が4回目でした。担任をしていますと、発展途上の学生が相手ですので、時には残念に思えることもあります。逆に、学生に迷惑をかけたことも数多く

あり、担任としての能力の低さを情けなく思うこともありました。同じ学校で長く働いていると、求人などで来校する卒業生の話を聞いたり、職場で活躍している卒業生の姿を見たりする機会が多くあり、私にとって大きな励みになっています。卒業する皆さんも、人間的に大きく成長し、技術者として社会に貢献してくれることを期待しています。

1・2年の担任であった山田敏清先生、鈴木智己先生、青山陽子先生、富永徳雄先生、そして園田拓夢君とともに、皆さんが心身共に健康で、充実した人生を過ごせるよう祈っています。



▲卒業研究発表会

卒業にあたって

機械システム工学科5年 宮田 一輝

私達は第2学年まで混合学級であり、第3学年から学科ごとのクラスとなりました。3Mの当初は、それまでのクラスの雰囲気や友好関係もあり、なかなかお互い打ち解け合うことができない日が続き、ほとんどの人が上手くやっっていけるのだろうか?と不安だったと思います。しかし、3Mとしての初めての行事である体育大会がきっかけとなり、その頃に現在の信頼関係の基礎が築き上げられたと思います。それからは日を追うごとに仲を深め合い、他の行事を通して今の和気あいあいとした関係となるまでに時間はかかりませんでした。特に4年時の学校祭では出店パートに挑戦し、一から自分達で企画し役割を決め目標を達成したことで、多くのことを学び、強い団結力と責任感を養うことができ、とても有意義な時間でした。その直後の見学旅行でも、ホテルでひとつの部屋に集まり大勢で深夜まで語り明かし、今までとは違ったクラスの一面を発見できたこともいい思い出です。

今振り返ると、辛いことや嬉しいこともこのクラスで共有し、

互いに良い所を伸ばすことで個人としても集団としても大きく成長し合えるクラスでした。来年度からは就職、進学とそれぞれの道に進むこととなります。もうこのメンバーと過ごすことができないのは凄く惜しいですが、5年間高専で学んだ知識、技術、友人関係などを活かして頑張っていきたいです。

最後になりますが、今までご指導くださいました先生方、関係者のみなさま、担任の立田先生には本当に感謝しています。ありがとうございました。



▲体育大会の打ち上げ

卒業を迎えて

電気情報工学科5年担任 土橋 剛

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。40名のこのクラスを引き受けたのが3年前、学科長を終えての10年振りの担任ということで、脱落者を出さないという想いで取り組みましたが、卒業にこぎつけたのはその内33名(この文章を書いている段階ではまだ判りませんが)で、途中6名が進路変更、1名が留年でクラスから去って行きました。最初の印象では、おしゃべりが多く、なんとも個性的な学生が多かったと思います。混合学級からの延長ということもあり、まだよそよそしさが感じられましたが、校内体育大会、高専祭のイベント毎に電気情報工学科としてのまとまりが出てきて、4年生の校内体育大会では優勝を勝ち取り、その後のインターンシップにも20名の学生が参加するなど活気あふれるクラスになりました。5年生では、大変厳しい就職活動を乗り越え、就職・進学とそれぞれの進路を勝ち取ってくれました。しかし、これも決して一人で勝ち得たわけではなく、これまで育ててくれたご両親や、学校と企業との関係の中での結果であることを

踏まえ、感謝の気持ちを忘れないで職務や勉学に励んで欲しいと思います。

昨年の創立50周年記念行事の折には、懐かしい卒業生や多くの卒業生の活躍に触れることができましたが、このクラスの卒業生も20年後、30年後、そして50年後にその活躍が語られることを楽しみにしております。最近聞いて心に残った言葉で、“人は生きている限り生き抜きたい”があります。卒業生諸君も、これから立ち向かう社会で精一杯生き抜かれることを期待いたします。



▲卒業研究発表会

卒業にあたって

電気情報工学科5年 土門 太

この旭川に来てから5年が過ぎ、もうすぐ旅立つ季節を迎えようとしています。仲間たちと勉学や部活、行事に取り組み過ごしてきた5年間は、入学当初に想像していた5年間よりも短く中身の詰まった時間でした。

私は、混合学級が電気科になってからの3年間で何度か級長を務めさせていただきました。クラスで何かを決めるといった際には前に出ることは多かったですが、実際に話を進めていくときにはみんなが積極的に意見を出してくれたので、特に大変な仕事ではありませんでした。このクラスでの一番の思い出は4年生のときに体育大会で優勝したことです。あの体育大会では、みんなそれぞれがやるべきことをやり、それぞれの持ち味を出すことができていました。あの優勝はこのクラスの団結力の強さがあるからこそ成し遂げられたことだと思います。

また、電気科になってから担任を務めていただいた土橋先生には本当にお世話になりました。この3年間、私たちのわが

ままで先生を困らせることが数え切れないほどありました。この個性の強い私たちのクラスが卒業の今までやってこれたのは、土橋先生の寛容な心と努力があったからこそだと思います。

この場所で仲間たちと過ごした時間は、かけがえのない時間であり忘れることのできない思い出です。この思い出を胸にこれからの自分たちの道を進んでいきたいと思います。最後に今までご指導いただきました先生方、本当にありがとうございました。



▲秀峰会館紅葉の前で

卒業にあたって (進路について)

制御情報工学科5年担任 阿部 晶

平成24年度制御情報工学科5年の学生諸君ならびに保護者の皆様、卒業おめでとうございます。今年度の卒業生は40名であり、この数字は昭和63年制御情報工学科設置から最大となります。進路は進学17名、就職22名、進学希望者1名となっています。進路先の詳細については、高専祭の保護者懇談会で制御情報工学科・システム制御情報工学科の保護者の皆様に過去5年分の進路資料を配布していますので、そちらをご覧ください。

はじめに、今年度の進学状況について説明します。大学編入学試験は本校の入試と同じように推薦選抜と学力選抜の2種類があります。推薦選抜は在学時の成績が優秀な学生を対象としており、各大学によって基準が異なります。進学を希望している在校生はしっかりと勉強して、優秀な成績を修めてください。推薦入試では面接による口頭試問や小論文試験等が実施されます。クラスでは9名の学生が推薦選抜から国立大学と本校専攻科に合格を果たしました。一方、学力選抜からは8名の学生が合格を勝ち取りました。特記事項としては、クラスから豊橋技術科学大学に5名の学生が受験し、全員が合格すると共に、内2名が成績上位者として入学金免除制度の対象となったことです。

一方、就職活動に関してですが、正直なところ「苦戦」しました。内定が得られるまでに受けた企業数は次のとおりです。1社: 9名(6名), 2社: 7名(3名), 3社: 3名(0名), 4社: 2名(0名), 5社: 1名(0名)。ここで、1社は第1希望の企業からの内定を意味し、3社は2つの失敗後の3社目での内定です。なお、括弧の内数は部活動に所属している学生数です。7名(3名)は7名中3名が部活に所属との意味です。この数字から、部活に所属している学生が就職に有利であることが認められます。就職試験では学力のみならず人間性も大きく問われます。これより、在校生には自分が熱中したことを生き生きと語れる人間になって欲しいと思います。

最後に卒業生に一言。君たちはまだまだ若く、今以上に飛躍する可能性を秘めています。夢や希望に向かって努力し、素晴らしい人生を歩んでください。



▲卒業研究発表会

卒業にあたって

制御情報工学科5年 佐藤 啓行

卒業が迫りくるある冬の日の事、私は数日後には引き払う寮の居室で荷物の整理をしていました。すると、高専に入学した直後に撮影されたクラスの集合写真を見つけました。そこには凛々しくも、どこかあどけないような表情の当時のクラスメイトが写っていました。私はその写真に、どこか懐かしさを感じました。

「旭川高専で過ごしたこの5年間というのは非常にあっという間で、入学式もついこの間の出来事のように」と感じているのは、私だけではなく多くの卒業生に共通していることだと思います。けれども、ついこの間の出来事であるはずの当時の写真を見てどこか懐かしさを感じるの、少し不思議ではないでしょうか。もちろん、服装や髪形の流行が現在とは異なるという点も考えられますが、それとはまた別な要素として、経験から来る内面的な成長があるのではないかと私は考えます。

例えば、日々の授業や実験、課外活動等で私たちは、自らの判断で問題を解決することを求められます。こういう時、私たちは友達に相談してみたり、過去の自分の経験から解決の道

筋を導き出そうとしてみたりします。たとえその問題がうまくいかなくても、自分なりに反省し考察して解決しようと努力します。このような経験の積み重ねは、やがて社会に出る私たちの「大人になるため」のトレーニングであったと私は考えています。そのトレーニングを終えた私たちだからこそ、写真の中の自分たちに懐かしさやあどけなさを感じるのではないのでしょうか。

最後になりますが、私は5年後10年後にクラスメイトと再会する日を楽しみにしています。卒業式の日の写真と見比べて、より大きくなったみんなと美味しいお酒とご飯を食べて、ゆっくりとお喋りしたいです。



▲校内体育大会

卒業 おめでとう!

物質化学工学科5年担任 小林 渡

平成24年度5Cの学生諸君、卒業おめでとう!

クラブ活動に熱心に取り組む学生が多く、寮生がクラスの1/3以上を占める(学校で1番多い年も)、元気だが比較のおとなしいクラスでした。皆、3年間でずいぶん大人になってきたと思います。有名なエッセイに「人生で大切なことはすべて幼稚園の(砂場で)学んだ」(ロバート・フルガム)というのがありますが、「仕事や勉強での必要な基礎(の60%以上?)は春光台の丘の上で学んだと自信を持って進んでいってください。もちろん学んだのは「たったの5年間」ですから、今後の頑張りが必要であることは言うまでもありません。これから毎日、「砂場に置き忘れたもの」や「春光台の丘の上で取りこぼした事」を拾い上げて行く謙虚さを忘れずに、自分の力で歩んで行ってください。新しい環境での飛躍を期待しています。

3年前、このクラスの担任と決まった事をクラスで話した際に、思いがけず皆から拍手を受けました。ポンコツ担任でその期待に充分に応える事ができず、皆にずいぶん心配と迷惑を

かけましたが、卒業まで頑張ってきた皆にはたいへん感謝しています。最後に、私が励みにしてきた言葉を贈ります。「愚直の一念」。「愚直」には良い意味はない様ですが、研究に行き詰まっていた大学院時代に読んだ渡辺淳一のエッセイにあったものです。目の前の霧が少し晴れて、諦めずに前に進む意欲が出てきたことを思い出します。明るい話題が少ない社会状況・経済状況ですが、君たちが私の希望です。いつまでも若く、元気で!



▲卒業研究発表会

卒業にあたって

物質化学工学科5年 武田 雄大

故郷・北見市を離れ不似合いなスーツを着て、ここ旭川高専に入学し、衝撃的な対面式で高専の伝統を肌で感じました。そんな経験から5年が経ち、3月に卒業式を迎えることができました。

5年間の時間は私たちにとって重要なものでありました。卒業までの時間を長く感じることもありましたが、振り返ってみるとあっという間に過ぎた5年間でした。それもクラスの仲間や寮の仲間と共に充実した日々を過ごしてきたからだと思っています。何をしても仲間と過ごした日々は本当にかけがえのない宝物であり、これからの財産になる大切な思い出だと思っています。

この卒業式という日を迎えられるのも今まで支えてくださった高専の教員の皆さん、特に物質化学工学科教員の皆さん、そして何より寮生、5C、5年生の仲間のおかげです。本当に感謝しています!担任の小林渡先生は私達5Cの進路に関して親身に協力して下さいました。多くの迷惑をかけました

がクラス一同、心から感謝しております。

これから我々、卒業生の多くが北海道を離れ全国各地に飛び立ち、就職・進学とそれぞれの道を別々に歩みます。なかなか会えなくなりますが、高専でのみんなとの思い出を胸に愛知の地で立派に暮らしたいです。

最後になりましたが、高専卒業後も大学編入を理解してくれた家族にありがとうと伝えたいです。また親のすねをかじることになりましたが、いつか大きな恩返しをするためにこれからも頑張ります。



▲緊張の卒研発表

専攻科修了にあたって

生産システム工学専攻2年 可児 周平

専攻科でたくさんのことを学びましたが、特にインターンシップとエンジニアリングデザインの授業において学んだことが大きかったと思います。これらの授業の経験で、社会に出ることへの意識が少し変わったように感じました。

インターンシップでは、車椅子や各種福祉用品を取り扱っているCOM泉屋さんにお世話になりました。ここでは、会社の一員として活動する体験や様々な障がいを持つ方たちと触れ合うことにより、自分の視野を広げられたように感じました。障がいを持つ方の中には、見かけ以上に大変な思いをしている方やその逆の方もいて、その方々にあった対応をしていくことが大切になります。この1ヶ月の社会人体験を経て、街の施設のユニバーサルデザイン化の不備や、自分自身を含め、障がい者への配慮がまだ不足しているように感じられました。

エンジニアリングデザインでは、車椅子に取り付ける座面の昇降装置の製作テーマを担当しました。この授業ではチームとして行動します。各自の役割分担を決め、設計からスター

トして試作品を完成させることができ、非常に良い経験となりました。また、指導員であるマイスター(企業技術者やOB)とのやり取りの中で、上司との付き合い方という面でも学ぶことが多かったと思います。

最後に、普段の生活面から学業面において友達を始めとした人間関係は、非常に大切なものであることに気づきました。自分だけでは解決できないことが絶対にあるので、その時は1人で悩まず、積極的に友達や先生方に相談することを体得した2年間でした。



▲車椅子試作品の外観

専攻科の2年間

応用化学専攻2年 菅原 猛司

本科5年間を経て入学した専攻科の生活は、当初は特に新鮮さを感じませんでしたが、大きく成長できた2年間だったと思います。そのきっかけとなったのは、後輩たちの存在でした。研究室に後輩達が入ってきて、先輩として「しっかりしていないいけない」、「負けられない」そんな気持ちが芽生え、研究に対する意識が高まりました。また、専攻科1年時のインターンシップの1ヶ月間では、北海道大学の研究室の生活を通し、頼りになる先輩方と触れ合うことで、自分もこんな風になりたいと思い、さらに向上心を持つことができました。

専攻科2年では、大学院の入試勉強で苦労した思い出があります。当初はこんなに苦労するとは思っていませんでしたが、今ではチャレンジして良かったと思っています。私は、この辛い時期を一緒に乗り越えた同期生達とは絆が深まった気がしています。大学院入試が終わると学位授与申請や道内高専専攻科交流会などがあり、あっという間に時間が過ぎました。

専攻科に入学したのは、本科の時に北海道大学への編入

学試験に失敗したからで、元々入るつもりではありませんでした。むしろ、絶対専攻科には行きたくないという気持ちでした。しかし、専攻科の2年を振り返ると得たものは多かったと思います。この歳で研究室の一番上(先生は除く)になれるのは専攻科くらいで、良い経験をしました。今では編入学試験に落ちてよかった、結果オーライだと思っています。

最後に、今まで支えてくれた家族、7年間ご指導して下さった先生方、色々お世話してくれた事務の方々、一緒に過ごしてくれた友達、先輩、後輩達に感謝いたします。本当にありがとうございました。



▲専攻科特別研究発表会

在校生送辞, 同窓会会長祝辞



送 辞

学生会会長
(電気情報工学科3年)

林 広尚

冬も終わりに近づき、寒さも少しずつ和らいで来ました。本日、晴れてこの旭川工業高等専門学校を御卒業・御修了される先輩方、おめでとうございませう。私達在校生一同、この良き日を心よりお慶び申し上げます。

私達が先輩方と共に歩んできた時間は瞬間に過ぎてしまいましたが、語りきれないほどの思い出が詰まっています。学内で気さくに話しかけて下さったこと、教えていただいた勉強のことは、今でも強く心に残っています。部活動では丁寧に、時に厳しく指導して下さいましたことで、私達は責任を背負うための心構えや、達成することの喜びを学ぶことができました。体

育大会での先輩方の取り組みも圧倒的で、私達に大きな感動を与えて下さいました。高専祭では、積極的にイベント等に参加し、私達を楽しませて下さいました。いつも私達をリードして下さいました先輩方と過ごした時間は、私達にとって忘れられない大切な思い出です。今後、私達は先輩方が築き上げて下さった本校の伝統を守り、後輩に受け継ぎ、悔いのない学校生活を送るために精一杯努力して参ります。

皆様が、これから新しい環境で生活されるにあたり、希望が膨らむ反面、不安も大きいことと思いますが、本校で学んだことや経験したことを生かし、新しい環境でも、きっと御活躍されるものと思います。御卒業・御修了の後も時には母校を訪ね、元気なお姿を見せて下さるとともに、私達を御指導下さいます様よろしくお願い致します。

最後になりましたが、先輩方の御健康と御活躍を心からお祈りし、送辞とさせていただきます。



祝 辞

旭川工業高等専門学校
同窓会会長

村上 孝志

旭川高専同窓会を代表し、一言お祝いを述べさせていただきます。本日は本科、専攻科の皆さん卒業・修了おめでとうございます。卒業、修了生の皆さんを今まで生み、育ててくれたご両親様、そして教育をしてくれた高橋校長先生はじめ教職員の皆様方、大変御苦労さまでした。

私も昭和42年3月に旭川高専を第一期生で卒業しました。今から46年前のことです。卒業式、先生方、友達との別れの悲しみ、就職、将来への期待と不安の入り混じった心境で小樽の会社へ向かったことを思い出しています。その気持ちこそ、皆さんが青春の真ただ中に居る証です。「生は偶然、死は必然」、「出会いが偶然、別れは必然」です。「与えられた偶然の命」です。どう生き抜くかは各自、皆さんじっくり考えて行動してください。生き抜く為に必要な学力を、この旭川高専で学びました。これから世の中で、この学力を役立てて生き抜いて下さい。

昨年4月、旭川高専は創立50周年を迎え、その記念式典が10月5日、盛大かつ厳粛に行われました。皆さんは、この式典に参加され、この後の50周年、旭川高専創立100周年に立ち会うことができます。その時の記念講演会講師である、東京家政

学院大学教授の、新田義則様(旭川高専第一期生で、私と1学年時は、寮で同室でした)の話の中で、現在自分の人生で人間形成されたのが旭川高専の学び舎と言っていました。人と人との「絆」、「つながり」が大切です。

昨年1月、NHKスペシャルで放映されていた「ヒューマン・何故人間になれたのか」での結論は、「人間はお互い協力したから猿より進化し生き長らえた」でした。「人間は協力する生き物」です。街、東日本大震災の復興、国の活性化、発展などはこのことが重要です。米国第35代ケネディ大統領就任演説の中に有名な一説があります。「あなたの国が、あなたの為に何ができるかを問わないで欲しい。あなたがあなたの国の為に何ができるかを問うて欲しい」。これを直し『あなたの周りの若い世代があなたの為に何をできるのかを問わないで欲しい。あなたが若い世代の為に何ができるかを問うて欲しい』……この言葉をかみしめてください。

私の座右の銘は、【人生、意気に感ず、功名誰か復論ぜんや】で、中国の魏徴という人の言葉です。この言葉、そして【一期一会】をかみしめ、今日までできました。現在、難しい世の中ですが、昨年末政権交代がありましたので段々と良くなると思います。皆さん将来に対し「夢」を持って前進してください。決して夢を持つだけは忘れないで欲しいと思います。どうか、このことを忘れないで各方面で頑張ってください。

短い挨拶ですが本日の祝辞とさせていただきます。



平成24年度を振り返って

教務主事(校長補佐)
橋本 直樹

第47期本科生及び第13期専攻科生の皆さん、卒業及び修了おめでとうございます。また保護者の皆様には、5年間または7年間の長きにわたり、学生諸君に対するご指導や本校へのご支援等、誠にありがとうございました。今後とも、何卒宜しくお願いいたします。

今年度は機械システム工学科34名、電気情報工学科33名、制御情報工学科40名、そして物質化学工学科42名の合計149名が卒業しました。この内、女子学生は21名です。卒業生の進路は、就職内定者が77名、大学等に進学する学生が69名になります。卒業生には、本校で培った知識と技術を存分に発揮していただきたいと思います。

振り返れば、昨年4月に平成24年度入学式を行い、女子学生26名を含む本科1年生167名、3年生に編入学する留学生1名、4年生に編入学する学生1名、専攻科1年生27名を迎え

ました。新生全員が進級できるよう指導してきましたが、残念ながら今年度も留年生が出ました。また、2年生以上の学年にも留年生がいます。留年した学生には補習等を行い、次年度は進級できるよう指導していく所存です。

今年度は、本校創立50周年で記念事業を行いました。式典、記念講演会等を行い、本校一期生で東京家政学院大学教授の新田義則先生に「旭川高専の師と仲間」と題してお話していただきました。全学生と教職員そして卒業生の方々が旭川市民文化会館大ホールに集まり、旭川高専創立時からのエピソードを語っていただきましたが、新田先生の独特な話しぶりやパフォーマンスで、学生諸君が話に引き込まれ、大喝采のうちに終わることができました。学生の聞き入る姿と大きな拍手に、彼らの成長を感じるひと時となりました。

最後に、今後とも学生諸君に対するご支援と共に本校運営へのご理解、ご協力を宜しくお願いいたします。



無誠、不立。

学生主事(校長補佐)
石本 裕之

本科47期及び専攻科13期の皆さん保護者の皆さん、ご卒業ご修了おめでとうございます。皆さんの今後のご活躍を祈念します。平成24年度、本校はめでたく開校50周年を迎え、次の50年へのスタートを切りました。在校生諸君にはよき伝統の継承者、よき未来の創造者となるべく期待されている、社会の要請に応えられるよう、精進してください。

平成24年度学生委員会関係の報告をします。今年度は「説論」以上の処分対象となった者は14名と、以前よりだいぶ減っています。しかし、「試験での不正行為」に関わるものが6名と、異例の数に達しました。試験中の不正行為は期間中の全科目が0点、1週間の停学となります。盗難としては自転車3件、金品6件の計9件が報告されました。秋以前、財布から紙幣を抜き取る手口が頻発しました。貴重品管理を徹底してください。

バス乗車等のマナーがよくありません。待ち順を乱す、乗り込みに先を争う、バス停や車内での大声会話等々、苦情や注意を受けています。残念なことです。日本の技術者の卵として、公共の秩序を守り、以て世界に範を示しましょう。

本校には現在、体育系の部は14、文科系の部は5、同好会等が14あります。高専体育大会の様子は前号で報告しました。文科系では発明研究会の活躍が目立っています。

今年度は、「課外活動功労表彰」「学術振興表彰」各2名が「随時表彰」されています。卒業式・修了式では、本科の「総合表彰」1名、「皆勤表彰」7名、「精勤表彰」45名、専攻科の「優秀学生表彰」1名、「学術振興表彰」2名が表彰されます。

さて、開校50周年を機に校訓が制定されました。「明朗誠実 自主創造」です。「身に誠なるは多く行に於いて発明す」と言ったのは吉田松陰ですが、これに因んで、「私家版論語」を引用します。

子貢問校訓。子曰「明朗、誠実、自主、創造矣」。子貢曰「必不得已而去、於斯四者、何先」。曰「去明朗」。子貢曰「必不得已而去、於斯三者、何先」。曰「去創造。有自主、則有創造矣。人無誠、不立」。(岩塩)



平成24年度 寮生指導報告

寮務主事(校長補佐)
岡島 吉俊

今年度は昨年度と比較すると、寮生指導の件数が少ない年度となりました。窃盗行為や飲酒行為は無く、喫煙行為がわずかに1件でした。居室扉や窓の無施錠、電気製品の電源切り忘れなどは相変わらず多くありますが、同じ指導を繰り返して受ける寮生は昨年に比べて減りました。

寮の生活環境の改善については、男子寮の居室窓の二重化が進み、学校全体の暖房に用いるボイラーも天然ガスを燃料とするものに更新されました。例年に比べて寒さの厳しい冬でしたが、禁止されている暖房器具類の持ち込みもありませんでした。寒さを訴える声はあまり聞こえてきません。ボイラーの更新による性能アップと窓の二重化の効果が現れているようです。

寮のような集団生活では、感染症の流行が心配されます。今年度は、4月下旬にインフルエンザに罹患した寮生が数名

出たり、6月末から7月にかけてマイコプラズマ肺炎に罹患した寮生が10名程度出たりということがありました。その都度、うがいや手洗いの励行、睡眠時間の確保により体調管理に気を付けるよう呼びかけています。今冬の寮生のインフルエンザ罹患者は、1月末までで3名です。通学生に多数の罹患者が出ているにもかかわらず、非常に少ない人数で済んでいます。引き続き、この状況が続くことを願っています。

近年、5年生のカリキュラムの中に選択科目が増え、選択科目を履修していない空き時間ができることがよくあります。授業日の午前中の在寮は以前から学年によらず禁止となっており、空き時間でも午前中は在寮を認めていません。空き時間については、コミュニケーション能力や英語力を高める、あるいは、卒業研究や自学自習に自主的に取り組むなど、就職や進学に少しでも有利になるように、卒研室や図書館などを利用して頑張ってもらうように指導しています。5年生の空き時間に伴う午前中の在寮は、昨年度に比べて大幅に減りました。

最後になりましたが、寮生が寮生活を通して大きく成長していくために、保護者の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い、今後ともよろしく願いたします。



新任専攻科長と しての1年間を思う

専攻科長(校長補佐)
富樫 巖

第13期の専攻科生の皆さま、そして保護者の皆さま、専攻課程の修了おめでとうございます。修了生のほぼ全員が青春、思春期の真っ只中の7年間を旭川高専キャンパスで過ごしたことになります。喜怒哀楽、種々の体験や思いがあったことでしょう。

その修了生の進路概況は大学院進学16名、就職5名(道内1名)、その他1名となり、進学が7割を超えるという新たな歴史の1ページが生まれました。専攻科を經由した大学院への道が一気に顕在化した感があります。

機械、電気、制御出身学生の「生産システム工学専攻」14名、化学出身学生の「応用化学専攻」8名の合計22名が専攻科の修了に必要な単位を修得し、さらに大学評価・学位授与機構から学士(工学)の学位を無事にいただくことができました。この晴の門出に立つことができましたのは、学生本人の努力

に加えて保護者の皆さまの支援や理解、そして手前味噌ですが本校の常勤、非常勤の教職員の支援、指導などが実を結んだものと解釈しています。

大学と異なり、専攻科では「技術者」教育を色濃くアピールしています。その一つが、地域企業から頂いた「ものづくり課題」の解決に挑戦するエンジニアリングデザインです。各自が個々の特別研究テーマを持ちながら、5名程度のチームでも一つの研究テーマに挑みます。注目すべきは、そのテーマが必ずしも学生個々の専門を考慮したものではないことです。個人プレーとチームプレー、得意な分野と意外な分野、教員による指導とマイスター(企業技術者)による指導、そして基礎的研究と実用化研究など種々対峙するものを処理するために、自身の時間やエネルギーのやりくりで四苦八苦したはずで、その結果、必ずしも100点満点の成績を修められなかったかもしれませんが、修了生にとっては技術者魂を学んだ2年間になったものと考えています。

この体験が今後の糧になることを祈念しています。

「校訓」の制定にあたって

新しい一歩のために

校長 高橋 英明

1. 始めに

本校は、昭和37年に春光台に設立されて以来50年を迎え、昨秋には、記念式典を挙行することができました。輝かしい歴史と伝統、そして光り輝く未来への希望を胸に、旭川高専は新しい第一歩を歩み始めています。

2. 校訓の制定

創立50周年を機に、旭川高専の教育のバックボーンとなるべく校訓(モットー)を制定することとし、学内で検討してきましたが、このたび正式に決定の運びとなりました。いろいろな案がありましたが、最終的に「明朗誠実 自主創造」が採択されました。何故、これが校訓として採用されたかをここに記します。

本校の歴史を語る上で、初代校長である原田準平先生の功績を忘れることはできません。原田先生は、本校の礎となる校歌を自ら作詞し、その校歌は今日まで歌い継がれてきています。校歌の4番には、「明朗誠実胸にして 切磋琢磨の五星霜

実りてここに意気高し たたえよ若人声高く」のフレーズが唱われています。“明朗誠実”な態度で学生同士が切磋琢磨し、実りある5年間を過ごすよう、先生の願いが格調高く書き込められています。本校の学生寮「明誠寮」も、明朗誠実であれとの願いを込めてつけられたものです。「学生生活のしおり」の表紙に描かれている本校の校章も、原田校長の考案によるものであり、「高専」の左右の3本の弧線の1本は「明朗で誠実」を表したものです。

本校の教育目標の中に「自主的に思考し、学習し、行動する習慣を身に付けさせ、心身の健康維持、増進に努めさせる。」があります。私が入学式の式辞の中で毎年触れる、本校の教育目標の最も大切な部分です。本校は、学生の“自主”的な思考・学習・行動の育成を、もっとも重要と考えている訳です。

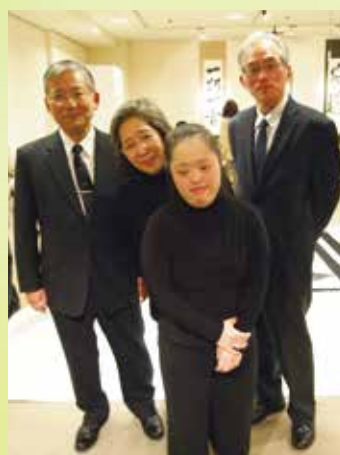
本校は、技術者を育てる教育機関です。そのため、「若く新鮮な感性と実験・実習等を重視した体験学習により、豊かな創造力と行動力を養う。」が、教育目標に書かれています。本校の教育理念に書かれている「実践的研究開発型技術者」で最も大切な能力は、“創造”性です。創造性に溢れた、ユニークなアイデアに満ちた問題解決能力を磨くことが我が国のものづくり産業の発展にもっとも重要と考えています。

「明朗誠実 自主創造」。学生諸君は、卒業後もこの言葉を技術者としての糧として生きてほしいと思います。人生において大きな困難に直面したとき、道標としてのこの言葉を思い出してほしいものです。

この校訓が学生諸君に親しみやすいように、学生玄関正面の壁に毛筆による校訓を掲げました。当代一流の若い女流書家である金澤翔子(雅号 小蘭)氏の揮毫によるものです。彼女は、生まれながらにしてダウン症と闘いながら書の世界に入り、昨年のNHK大河ドラマの「平清盛」の題字を担当する等、近年大活躍しています。そんな彼女の生きる姿を想像しながら、学生諸君には日々の勉学生活に精を出していただきたいと考えています。



▲学生玄関正面に掲げられた校訓



▲金澤翔子新作品展 (於 西武旭川店)

専攻科特別研究発表会 ほか

専攻科特別研究発表会

2月15日(金)、ロワジールホテル旭川において「専攻科特別研究発表会」を実施しました。

この発表会は、専攻科第2学年学生が2年間の研究の総まとめとして、旭川市内の企業関係者をはじめ、一般市民に広く専攻科及び研究内容を紹介するとともに、プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力の向上を図ることを目的として毎年実施しているものです。

当日は、旭川市内の企業関係者や発表学生の父母、本科学生、教職員など80名を超える参加がありました。発表はポスターセッション形式で行われ、学生たちは参加者へ熱心に説明をしていました。また、パソコンによる動画や実験用の模型を使用するなど趣向を凝らした発表を行った学生もおり、非常に活気のある発表会となりました。

本校では、参加者からいただいた貴重なご意見を参考とさせていただきますながら、一般公開形式によるこの発表会を次年度以降も継続し、地域に開かれた高専を目指していくこととしています。



専攻科インターンシップ報告会

本校専攻科では、企業等での約1ヶ月間の就業体験を通して、学校では経験できない実際の課題、研究に取り組み、技術者の心構えを学習するインターンシップを実施しています。今年度も、旭川高専産業技術振興会会員企業を始めとする市内企業8社及び道内外の3大学の協力を得て、無事に終えることができました。

専攻科インターンシップ報告会は、その成果を発表する場として毎年開催しているもので、今年度は12月5日(水)に行いました。当日は、受け入れ企業担当者、本校学生及び教職員60余名の参加があり、学生たちは自らの手で要旨集を準備し、動画で作成した資料を用いるなどして、それぞれ趣向を凝らした内容で学習成果の発表を行いました。

この報告会を通して、自身が得た経験を発表し、企業担当者による現場の貴重なコメントから実習を振り返り、また、他の学生の発表による経験や成果を共有することにより、学生たちにとっては、技術者としての将来像を見据える大変良い機会となったことと思います。



発明研究会, 4年連続で全国パテントコンテスト, デザインパテントコンテストに入賞

発明研究会顧問 谷口 牧子

発明研究会の学生たちが、文部科学省、特許庁、独立行政法人工業所有権情報・研修館、日本弁理士会共催の知的財産に関するコンテストで、意匠出願支援対象に選出されました。発明研究会の学生たちは、平成21年度パテントコンテストで初めて支援対象に選出されてから、22、23、24年度とデザインパテントコンテストに入賞し、4年連続で特許出願および意匠出願の支援対象に選出されたこととなります。今年度は、2件が支援対象に選出され、4名の学生が表彰されました。これまで、デザインパテントコンテスト部門での入賞は、全国高

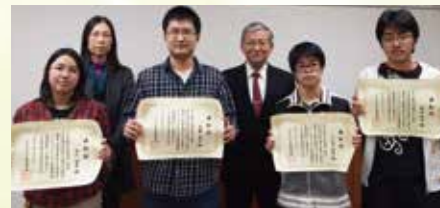
専の中では、本校発明研究会に所属している学生のみとなっています。今回の審査委員長は、宇宙飛行士の毛利衛さんでした。入賞した学生たちは、記念撮影だけではなく次年度のコンテスト参加のアイデアについて、毛利さんから貴重なアドバイスもいただいていた。とても印象深い表彰式でした。



電気情報工学科3年 小山内 達哉

今回僕たちは、東京で開催された全国パテントコンテスト、デザインパテントコンテストの授賞式に参加してきました。デザインパテントコンテストは、全国の高校生、高専生、大学生を対象に、自らが考えたデザインの実アイデアを実際に意匠権にすることを目的とするコンテストで、発明研究会では平成22年度からこのコンテストに参加しています。発明研究会としての意匠登録出願支援対象選出だけでも3年連続3度目になります。特に今年度は、2件選出されたため、デザイン部門の入賞件数としては全体で4件となりました。また高専部門では、今年度まで、旭川高専(しかも発明研究会)のみが選出されています。産業財産権の本来的目的からすると、コンテストでの受賞は、単なる入り口でしか

なく、意匠登録出願支援対象選出後は、意匠権を獲得するため、弁理士の方と相談をしながら、3月末までに願書類を仕上げ、特許庁へ出願することになります。僕個人としては2度目の出願ですので、ある程度の流れは把握していますが、今回関わった物品は3人連名での出願であり、初めての出願の人もいるため、しっかり連携をとって確実に権利化につながるものにしたいと考えています。



第6回全国高専英語プレゼンテーションコンテストに出場して

電気情報工学科3年 小森 崇史

全国高専英語プレゼンテーションコンテストではスピーチ部門に出させていただきます。実はプレゼンテーションコンテストに出ることになったきっかけは十河先生からのアプローチによるものでした。

私は基本的に受動的で、おそらく先生に声をかけてもらわなかったら、出場しようなどとは夢にも思わなかったでしょう。先生には毎日スピーチの稽古をつけていただきました。練習の中では、先生からいろいろと有益な教訓を授かりました。例えば、嫌なことでも時には率先してやれば良いことがあることです。

また、私にとっては次の言葉も印象に深いです。「公衆の面前で話すに当たって周到に準備を行い、プレッシャーのコントロールができればいけない」。これは全国大会当日、ある審査員の先生が話していたことです。コンテスト開始に際し、

開催校の校長や一流の博士号を持った審査員の先生方が、英語で励ましのスピーチを出場学生に向けてするのですが、これは素晴らしいと思わせる何かがありました。

私は、2日目はプレゼンテーション部門の発表のみなので学ぶべきことは少ないだろうと考えていました。しかしその考えは間違っていました。審査結果発表前の審査員の先生方のスピーチは、やり方はもちろん、内容も目からうろこが落ちる体験で、出来ればコンテスト初日に心得として知っておきたい、知っておけば良かったと思うものでした。

そして遂にコンテストが終わり、批評が書かれた採点用紙が来ました。内容は新しい発見もありましたが、ある程度予想していた通りで、残念ながら入賞はできませんでしたが、学んだことは多く、私の人生の良い経験になったと思います。



全国高等学校スキー大会(インターハイ)に出場して

1年3組(物質化学工学科1年) 中山 太一

2月上旬に札幌市で開催された、全国高等学校スキー大会(インターハイ)に大回転競技で出場しました。中学の時は地区大会で転んでしまって出場できなかった全国大会なので、とても楽しみな気持ちでいっぱいでした。結果は、全く自分自身が納得のいく滑りが出来ず、悔いの残る結果になりました。

今シーズンは、環境が昨年までとは異なり、色々な面で不安が多いシーズンでした。ですが、インターハイが終わってからは、自分がどうすればいいのか、何が足りないのかがハッキリしました。1つはフリーの滑りを完璧に自分のものにするこ

と、もう1つはオフシーズンのトレーニングです。今シーズン中に、滑りを自分の納得のいくものにして、オフシーズンはトレーニングに集中したいと思います。そして来シーズンは、万全の状態で行きたい。全国大会へ挑み、自分自身が満足して悔いを残さないような大会にしていきたいです。



初めてのそば打ち体験

物質化学工学科4年 バトブヤン BATBUYAN ムンフオド MUNKHO

1月5日から7日の2泊3日で北海道内高専外国人留学生交流会が開催されました。交流会には、北海道内4高専の留学生17名と教職員8名が参加し、私にとっては初めての留学生交流会でした。

今回の交流会の主管校は、釧路工業高等専門学校でした。交流会の目的は、道内4高専の様々な国の留学生の自国の状況や伝統的な文化等についてお互いに情報を交換することでした。それに加えて、外国人留学生に日本の伝統的な文化を体験して貰い、さらにウィンタースポーツを通して北海道の自然の美しさを体験することでした。

今回の開催場所はサホロリゾートで、初日はサホロリゾートまでジャンボタクシーで2時間かけて移動しました。凄くワクワクしていました。サホロリゾートホテルに到着し、荷物を置いて

すぐにそば打ち体験に出発しました。私にとってそば打ち体験は初めてでした。学生2名、教員1名の3人一組でそば打ち体験をしました。私の国のモンゴルでは、そば打ちに似ている物があるので、そば打ちをうまくできました。朝から何も食べてなかったの



で、自分で作ったそばを早く食べたい気持ちで一杯でした。出来上がったそばを食べて本当に驚きました。今まで何回もそばを食べたことがありますが、それらと違って凄く美味しく、友達の残したそばも全部食べてしまいました。今後、自分でもそばを作れるんじゃないかと思いました。

2日目はウィンタースポーツを体験する日で、スキー場に移動しました。前日と違い天気が悪く、吹雪いていました。私は、スノーボードが2回目でしたが、レッスンは受けずに滑りました。サホロリゾートは、他のリゾートに比べてとても大きいリゾートでした。私は、友達と一緒にリフトに乗って一番高い場所まで登りました。下までの3キロは、長くて楽しかったです。モンゴル出身の留学生が4人も参加していて、皆と一緒にスノーボードをやって凄く楽しい1日を過ごすことができました。普段はこのように集まる機会がなかなかないのです。

今回の交流会で様々な国の友達ができたとと思います。去年の交流会に参加できなかったのが、本当に残念だったなと思いました。来年もぜひ参加しようと思っています。



外国人留学生送別会

2月8日(金)、今年度卒業する5年外国人留学生を送別する会が開かれました。

校長や学生会長から激励の挨拶のあと、卒業する留学生から挨拶があり、3年前に入学した頃に比べ格段に上達した日本語で、3年間の感想とこれから進学する大学生活での意気込みを語りました。

学生、教員を含めて卒業する留学生の今後を祝福し、用意された料理を楽しみながら楽しく歓談しました。



水原ハイテク高校からの留学生受け入れ ほか

水原ハイテク高校との交流事業及び短期留学生の受け入れ

副校長(国際交流委員会委員) 平野 友彦

今年度も大韓民国・水原ハイテク高校と交流事業を行いましたので、その報告をさせていただきます。本事業は、平成22年度から始まり3回目となります。同21年7月30日に同校との間で国際交流協定を結び、その後、よりよい交流を目指して、毎年事業の実施に合わせて両校間で協議を重ねて今日に至っています。

今年度は、7月18日～25日までの8日間、水原ハイテク高校から8名(男子5, 女子3)の生徒が本校を訪れ、その交換として、旭川高専から8名(男子7, 女子1)の学生が8月24日～31日までの8日間、水原ハイテク高校を訪問しました。また、10月15日～11月14日までの1ヶ月間、水原ハイテク高校から短期留学生として2名を受け入れました。

8日間ずつの相互訪問では、市内見学やホームステイ、授業参加等が行われました。一方、1ヶ月の短期留学生2名は「特別聴講学生」として、2年1組(担任鈴木先生)と2年3組(担任青山先生)に入って本校学生と同じ授業を受けました。また、最初と最後の1週間ずつ水原ハイテク高校から引率教員に来ていただき寮で生活をしてもらいました。留学生2名は水原ハイテク高校で日本語を学んではいましたが、日本語で行われる授業を理解するのはとても大変だったようです。この点については、今後、工夫と改善が必要と感じています。

今回は、日韓関係が外交問題で揺れている中での訪問になったため、不安があったようですが、実際に現地で水原ハイテク高校の生徒と接することで、そうした不安は解消し、仲良くなることができたそうです。国際交流の良さはこうしたところにあると思います。学生諸君には、是非、国際交流事業に参加し貴重な体験を積んでほしいと思います。



▲ホストファミリーとの集い(秀峰会館にて)

明誠寮新年会

明誠寮で毎年恒例の寮生新年会が開催されました。

1月17日(木)に行われた夕食会は、バス5台で市内バイキングレストランへ出発。会場はほぼ貸し切り状態の中、日頃寮の食堂では食べることの出来ない様々な種類の料理に舌鼓を打ちました。多くの寮生に好評で、「来年も楽しみにしている」との声が聞けました。

20日(日)には、スポーツ大会とゲーム大会が行われ、バレー

ボールや卓球、フットサル等のスポーツを行い、さわやかな汗を流しました。夜は、テレビゲームや麻雀大会を行いました。学生にまじって、校長や教員も熱戦を繰り広げ、大いに盛り上がっていました。年に一度の新年会で、寮生はゲームに、麻雀に、スポーツにと大いに羽を伸ばし、明日への活力を養いました。



5年寮生夕食会

去る2月18日(月)に、今年度卒業する5年寮生の夕食会が開かれました。

明誠寮管理棟2階の和室でしゃぶしゃぶやオードブルを食べつつ、副校長や寮務主事など寮関係者との談話や、仲間たちとの寮生活の最後のイベントを楽しんでいました。

これまでの寮生活の思い出を語る5年生からは、「長いようで短かった」、「不自由なこともあったが楽しかった」などの感想が聞けました。

卒業を祝って寮生父母会からの記念品が副校長から一人ひとりに手渡され、最後は全員で記念撮影をして卒業生の前途を祝しました。



地域開放特別事業 ほか

地域開放特別事業

1月7日(月), 本校において, 地域開放特別事業「冬休みの一日を旭川高専で楽しもう!」を開催しました。

この事業は, 地元の小・中学生に本校を開放し, 科学・工学に関する体験イベントや製作・実験等を通して, ものづくりや理工系教科への関心を増大させると共に, 地域との連携を一層強化することを目的としており, 当日は市内及び近郊の小・中学校から, 保護者併せて115名が参加しました。

午前は, 体育館で高専ロボコン大会に出場したロボットを操作したり, 応用物理学会による「リフレッシュ理科教室」を体験しました。午後からは, 4コースに分かれ, サイクロン式掃除機, 電子オルガン, 無線機, 七宝ストラップの製作を行いました。参加した小・中学生は, 高専学生のサポートを受けながらハンダ付けなど難しい作業に挑戦していました。

今年も申込期限を待たずに定員に達するほど好評で, 主催した本校地域共同テクノセンターでは, 地域に浸透しつつある同事業をさらに発展させ, 旭川地域の子どもたちが, 将来, 科学やものづくりに携わるきっかけとしたいと意気込んでいました。



▲サイクロン式掃除機を作ってみよう!



▲リフレッシュ理科教室



▲ロボット操作体験



▲手作り無線機を作ってみよう!



▲旭川高専・産総研 研究交流会



▲講演する経済産業省 多田 好克氏

旭川高専・産総研 研究交流会

2月27日(水), 本校において, 「旭川高専・産総研 研究交流会」を開催しました。

この研究交流会は, 平成23年7月, (独)国立高等専門学校機構と, (独)産業技術総合研究所との連携・協力の推進に関する協定が締結されたことに伴い, 科学技術の振興および産学官連携推進を図るとともに, 地域企業の技術者との交流を深めることを目的に, 道内では昨年度, 函館高専と釧路高専, 今年度は本校と苫小牧高専で実施予定となっております。

交流会は, 医療, エネルギー, 機械システム, バイオの4テーマについて, 本校と産総研の研究者各1名が, それぞれ同じテーマを交互に発表するスタイルで進められ, 本校からは教員4名, カウンターパートナーとなる産総研からは, 全国の研究所より4名の研究者が発表しました。

会場には, 本校教職員と学生のほか, 地元企業や自治体, 市民など70名以上の参加者があり, 先端分野の研究内容や身近な研究課題に対し, 活発な質疑応答がされるなど, とても有意義な交流会となりました。

地域企業等との懇談会

3月7日(木), 平成24年度「地域企業等との懇談会」をロワジュールホテル旭川で開催しました。この懇談会は, 本校と旭川工業高等専門学校産業技術振興会が主催したもので, 道北地域を中心とする産学官連携の推進を図り, 地域社会の発展に資するため, 本校と地域企業, 団体, 公的機関等が意見交換・懇談を行うことを目的に例年開催しているものです。

懇談会では, 経済産業省北海道経済産業局の多田好克 資源エネルギー環境部エネルギー対策課長から, 再生エネルギー・省エネルギー施策と制度活用動向について講演が行われ, 旭川市内の企業関係者や本校教職員など約70名の参加者が熱心に耳を傾けていました。

平成24年度卒業生・修了生進路状況

平成24年度 進学・就職状況について

進路支援委員会委員長 三井 聡

今年度の本科卒業、専攻科修了生の進路についてご報告いたします。本科卒業生は149名で就職77名(51.7%)、進学が69名(46.3%)となりました。また、就職者のうち道内就職者は30名(38.9%)で、そのうち地元企業が3名です。進学者のうち、本校専攻科への進学は19名(27.5%)です。一方、専攻科修了生は22名で就職5名、進学16名です。進学では特に北海道大学大学院に10名、東北大学大学院に2名が合格し、本校専攻科のレベルの高さが伺えます。

今年度の就職・進学の割合は例年通り、就職内定率は98.7%でしたが、企業の業績が回復しない中での就職活動は予想通りかなりの苦戦を強いられました。企業の採用姿勢、要求は例年と変わりませんから、対話能力不足、意欲不足、表現不足、認識不足等多くの不足を補えないまま、就職活動に挑んだ学生が多かったことが要因だと思います。次年度の就職活動は、日本経済がアベノミクスでどのようになるか分かりませんが、どのような状況でも希望する企業の内定を勝ち取るために、準備だけは怠らないようにしてほしいと思います。

最近の企業の求人傾向として、少子化や大学院への進学が増えたことにより、質の低下した大卒の採用を抑え、大学院修了生と高専卒業生の採用を増やしています。その結果、大企業においては大学院修士課程修了生と4年の年齢差のある高専卒業生が研究・開発に従事することが難しくなっているようです。また、学歴が高くても仕事ができない人が増えている、高校卒業生の質も下がっているということで、複雑なシステムになっている近年の製造システムの開発、管理技術に対応できる可能性を持った高専卒業生への期待が大きいとのことです。

最後になりますが、学生の就職活動には担任を中心として多くの先生方、OB、保護者の指導、協力、声援が本校の就職支援の要だと思っております。今後ともご協力をお願いいたします。

就職状況(本科・専攻科)

平成25年3月21日現在

区分	本科生				専攻科生			合計	
	機械システム工学科	電気情報工学科	制御情報工学科	物質化学工学科	小計	生産システム工学専攻	応用化学専攻		
規模別	500人以上	16	12	15	7	50	3	3	53
	500人未満	5	7	7	8	27	2	2	29
	官公庁					0		0	0
産業別	農業、林業、漁業					0			0
	鉱業、採石業、砂利採取業					0			0
	建設業	3	1	2	1	7	2		2
	製造業								
	食料品、飲料・たばこ・飼料	2	1	1	3	7	1		1
	繊維工業			1		1			0
	木材・木製品、家具・装飾品			1		1			0
	パルプ・紙・紙加工品	2				2			0
	印刷・関連連			1		1			0
	化学工業、石油・石炭製品、プラスチック製品	1		5	9	15			0
	ゴム製品、なめし革・同製品・毛皮					0			0
	窯業・土石製品					0			0
	鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	2	1		2	5			0
	はん用・生産用・業務用機械器具		1	3		4			0
	電子部品・デバイス・電子回路					0			0
	電気・情報通信機械器具	1	3			4	1		1
	輸送用機械器具	3	1			4			0
	その他					0			0
	電気・ガス・熱供給・水道業	2	6	1		9			0
	情報通信業	1	4	4		9			0
	運輸業、郵便業	3	1	2		6			0
	卸売業、小売業					0			0
	金融業、保険業					0			0
	不動産業、物品賃貸業					0			0
	学術研究、専門・技術サービス業			1		1			0
	宿泊業、飲食サービス業					0			0
	生活関連サービス業、娯楽業					0			0
教育、学習支援業					0			0	
医療、福祉					0			0	
複合サービス事業					0			0	
サービス業	1				1	1		1	
公務					0			0	
合計	21	19	22	15	77	5	0	5	82

平成25年3月21日現在

区分	道内	道外	合計						
道内	10	12	7	1	30	1	0	1	31
道外	11	7	15	14	47	4	0	4	51

日本標準産業分類第12回改定を採用

道内・道外就職状況

平成25年3月21日現在

区分	本科生				専攻科生			合計	
	機械システム工学科	電気情報工学科	制御情報工学科	物質化学工学科	小計	生産システム工学専攻	応用化学専攻		
道内	上川総合振興局	1		3		4		0	4
	石狩総合振興局	8	11	2		21	1		22
	空知総合振興局	1	1		1	3			0
	胆振総合振興局			2		2			0
	小計	10	12	7	1	30	1	0	1
道外	茨城県	1	2			3	1		1
	栃木県		1			1			0
	千葉県				1	1			0
	東京都	8	2	7	9	26	1		1
	神奈川県	1	1	3	2	7	2		2
	静岡県			1	2	3			0
	愛知県	1	1	2		4			0
大阪府			2		2			0	
小計	11	7	15	14	47	4	0	4	51
合計	21	19	22	15	77	5	0	5	82

平成25年度入学者選抜試験状況

進学状況(本科・専攻科)

(1)大学編入学等状況

平成25年3月21日現在

大学名等	機械システム工学科	電気情報工学科	制御情報工学科	物質化学工学科	合計
本校専攻科	5	4	3	7	19
北海道大学		1	1	1	3
室蘭工業大学			2	2	4
北見工業大学		2			2
小樽商科大学				1	1
弘前大学	1				1
宇都宮大学				2	2
金沢大学				1	1
電気通信大学			1		1
首都大学東京	1				1
長岡技術科学大学	1	1	1	9	12
豊橋技術科学大学	3	2	7	2	14
名古屋大学		1			1
三重大学	1				1
信州大学				1	1
和歌山大学				1	1
岡山大学			1		1
公立ほこだて未来大学		1	1		2
専門学校等		1			1
合計	12	13	17	27	69

卒業者数	34	33	40	42	149
進学率	35.3%	39.4%	42.5%	64.3%	46.3%



▲北海道大学工学部編入学説明会



▲就職実践模試

(2)大学院等入学状況

大学名等	生産システム工学専攻	応用化学専攻	合計
北海道大学大学院	3	7	10
東北大学大学院	1	1	2
長岡技術科学大学大学院	2		2
豊橋技術科学大学大学院	1		1
奈良先端科学技術大学院大学	1		1
合計	8	8	16

修了者数	14	8	22
進学率	57.1%	100.0%	72.7%



▲採用試験の心構えに関する講演及び模擬面接

平成25年度入学者選抜試験状況

本科

平成25年3月21日現在

学科	区分	A 入学定員	B 志願者数			B/A 志願倍率	合格者数		
			男	女	計		男	女	計
機械システム工学科		40	67	1	68	1.7	62	1	63
電気情報工学科		40	63	6	69	1.7	60	5	65
システム制御情報工学科		40	66	7	73	1.8	62	7	69
物質化学工学科		40	89	41	130	3.3	87	37	124
計		160	285	55	340	2.1	271	50	321

※推薦選抜を含む。※合格者には、第2志望以下の学科の合格者を含む。

専攻科

平成25年3月21日現在

専攻	A 入学定員	B 志願者数		B/A 志願倍率	合格者数	
		推薦選抜	学力選抜			
生産システム工学専攻	12	推薦選抜	7	1.1	7	
		学力選抜	前期		0	-
			後期		6	5
社会人特別選抜	0	-				
応用化学専攻	4	推薦選抜	9	3.3	5	
		学力選抜	前期		4	2
			後期		0	-
社会人特別選抜	0	-				
計	16		26	1.6	19	

お知らせ（行事予定 ほか）

●平成25年度行事予定（春～夏）

4月 1日(月)～ 5日(金)	春期休業(本科・専攻科)
4月 8日(月)	平成25年度入学式
4月 9日(火)	始業式・対面式(本科), 1年オリエンテーション(本科・専攻科), 授業開始(専攻科)
4月10日(水)	授業開始(本科)
4月12日(金)	健康診断(本科・専攻科)
4月17日(水)～ 18日(木)	新入生合宿研修(本科)
5月 1日(水)	授業参観日(本科)
5月 2日(木)	休業日(開校記念日振替)(本科・専攻科)
5月13日(月)～ 16日(木)	平成26年度専攻科推薦選拔出願期間
5月16日(木)～ 17日(金)	校内体育大会
5月27日(月)	平成26年度専攻科推薦選抜試験日
6月 3日(月)～ 6日(木)	平成26年度専攻科前期学力選拔出願期間
6月10日(月)～ 14日(金)	前期中間試験(本科)
6月15日(土)	平成26年度専攻科前期学力選抜試験日
7月 1日(月)～ 5日(金)	平成26年度編入学出願期間
7月12日(金)	休業日(本科)
7月12日(金)～ 15日(月)	北海道地区国立高専体育大会(主管校:釧路)
7月17日(水)～ 24日(水)	水原ハイテク高校交流事業(受入)
7月18日(木)～ 19日(金)	2年宿泊研修(本科)(予定)
7月20日(土)	平成26年度編入学選抜試験日
7月26日(金)～ 8月30日(金)	夏期休業(本科)
7月26日(金)～ 9月13日(金)	夏期休業(専攻科)
7月27日(土)～ 28日(日)	体験入学一進学説明会同時開催一(中学生対象)
8月16日(金)～ 9月 1日(日)	全国高専体育大会(東北地区開催)
8月20日(火)～ 9月13日(金)	インターンシップ期間(専攻科)
8月23日(金)～ 30日(金)	水原ハイテク高校交流事業(派遣)

編集後記

大雪で始まった2013年は、早くも3ヶ月が経ちました。今号は、2013年最初の学校だよりですが、2012年度最後のFANCTでもあります。このため、今号の主な内容は、卒業式や各種報告関連が中心になっています。学び舎を旅立つ皆さんには、旭川高専で培った能力を生かして、それぞれの新しい環境で活躍されることを願っています。裏表紙には、4月からの新年度行事予定を掲載していますので、参考になさってください。(M)

学校だよりに掲載されている記事・写真などは、学校だよりへの掲載目的以外の利用及び外部への提供は、一切行いません。また、個人情報に関するお問い合わせは、本校総務課総務係（TEL 0166-55-8000）まで、ご連絡ください。掲載の記事・写真・イラストなどのコピー、転写等の二次利用は固くお断り致しております。

独立行政法人国立高等専門学校機構

旭川工業高等専門学校

Asahikawa National College of Technology

〒071-8142 旭川市春光台2条2丁目1番6号
TEL 0166-55-8129(総務課) FAX 0166-55-8082
<http://www.asahikawa-nct.ac.jp>

旭川工業高等専門学校
広報委員会
FANCT vol.114
平成25年3月発行



旭川工業高等専門学校
モバイルサイト